

「しののめ」

四十号を発行

—身障者の同人雑誌—

四月中旬発行予定

「しののめ」は脳性マヒ、脊柱性小児マヒ、カリエス、切断等による身体障害者が各自自由な態度で文芸創作、詩、俳句、短歌、評論等を発表し、それ等を通じて常に我々身障者の直面している問題を探究し、社会の理解を求める苦腦とその実状、そしてその福祉政策の向上を世に訴えている同人総合雑誌です。

「しののめ」は、戦争直後小数の人たちが回覧雑誌として始めたのですが、その後、田中澄江女史、鈴木信太郎画伯その他多くの社会的地位にいられる方々の声援を得、又、同人会員も増加の一途をたどり、B5百二、三十頁のものを年四回発行するまでになり、こゝにまでたく四十号を発行する事になつたのです。この四十号は記念特集として「しののめ」の歴史、同人会員のプロフィールを掲載すると共に、年金や重度障害者の収容施設の問題を取り上る等、一人でも多くの人に読んで頂くための編集をしました。

尚、譲読ご希望の方は東京府本村町十四花田政國へお申込み下さい。

東京都港区麻布本村町十四花田政國



天皇皇后両陛下も御出で

身障者手工芸品展

先号でお知らせしたように、四月二六日から五月一日まで日本橋三越で、身障者手工芸品展示即売会が催されたが、同会場へ、初日一般公開のされる前に、天皇、皇后両陛下、並びに宮様方がお出になり、約一時間にわたって熱心に手工芸品や身障者の福祉行政に関する資料などをこちらになつた。この展示即売会には連日かなりの人が入ったようであった。なお、この展示会に三十点ほどの物を「青い芝の会」からも出品したが、本会としてこの催しに参加したのは初めてのこととて、何事も不慣れなため、予期した成果は上げられなかつた。

印 刷 所	大田区雪ヶ谷七五二 青い芝(山北方)
編集責任者	大田区調布嶺町二丁目三一
オール事務機器	田 村 公 一
発行所	東洋大学文学部へめでたく入学された。

『家庭でもできる 脳性マヒ児教育の手助け』

本会で翻訳発行

一昨年、アメリカのC.P.たちの教育・職業・生活状態などをたずねる手紙をアメリカ大使へ出したところ、既に承認のよう、C.P.の職能評定に関する映画・フィルムやその他各種の資料が送られてきたが、その中の一つにニューヨーク州教育局から出版された「脳性マヒ児童に対する教育の手助け」という本があつた。これを見て本会では、もしこれをほん訳發行できたら、近年増加しつゝあるわが国脳性マヒ児の教育に少なからず役立つと思ふ、同書のはん訳許可を頼つたところ心良く承諾されたので、この度、本会と「青い芝・親の会」の共同出資により

右の本を発行したのである。この本は、アメリカのC.P.児の教育に少なからず役立つざわわっている多くの教師が、実際の経験に基いて、かなり重慶のC.P.児にも「こうすれば学習させる事が出来る」

厚生部おしらせ

「青い芝」からも出品

身障者作品展示即売会へ

今般、会員の新藤さんの提案により、洋裁の仕事を面倒みていたゞくことになりましたので、洋裁のできる人、及びこれから習いたい人はふるつて御参加下さい。

尚、資金及び教習費用は新藤さんと直接ご面談の上決定していただきます。

新藤夫美江さんの住所は東京都新宿区淀橋六五八

電話(三六八)三三九一

会員消息

岡本吉司君

いつも会のトウ写印刷をしてくれているが、この度その技術をみがくために中央賛写学院に入られた。

佐久間恵子さん

日本編物協会で先生の資格を得られた。

尾堀元英君

佐久間恵子さん

東洋大学文学部へめでたく入学された。

酒井仁君

今まで都下立町の身心障害者施設當土学園にいられたが、今度、世田谷区上野毛二二〇 大東学園病院に移られた。

会員の皆さんもお誘い合せなどしてご来場下さい。

II 編集後記

△今月号は特集をしましたが、あまり原稿が集まらなかつたことを残念に思いました。しかしその為お寄せ下さつたものは全て載せることが出来ました。「特集理由」にも書いた通り、これからもどうぞ

お寄せ下さい。

▽三月の役員会で、あまりにも会長の仕事が多いことが問題とされ、これからは副会長が出来る限り代理をつとめることになりました。

K・T記

△二周年記念大会での決議文を見たある人が「小児病的決議文」と評した。

A・Y記

會計報告

去る十一月の大会で会則の変更が行な
われた結果、会計年度の年度替りが從來
の十一月から四月に変りましたので、そ
の切り替え期間中の会計（昭和三四年十
一月一日—同三五年三月三一日）を報
告いたします。

更生会 レクリエーション部	交信部 通信費	会計部 通信費	事務用品費	会費領収証用紙代	教養部 諸雜費	実態調査委員会 交通費	通信費	役員会交通費 支部關係費	收入総額 支出総額	差引残高	後援会設立準備会会合費
三四〇	二四〇	二二〇	二〇〇	一五〇	一〇〇	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九
三四一	二四一	二二一	二〇一	一五〇	一〇〇	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九
三四二	二四二	二二二	二〇二	一五二	一〇一	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九
三四三	二四三	二二三	二〇三	一五三	一〇二	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九
三四四	二四四	二二四	二〇四	一五四	一〇三	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九
三四五	二四五	二二五	二〇五	一五五	一〇四	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九
三四六	二四六	二二六	二〇六	一五六	一〇五	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九
三四七	二四七	二二七	二〇七	一五七	一〇六	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九
三四八	二四八	二二八	二〇八	一五八	一〇七	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九
三四九	二四九	二二九	二〇九	一五九	一〇八	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九
三四〇	二五〇	二三〇	二一〇	一六〇	一一〇	九五〇	三一六	二九〇	一八九五六	一三〇五四七	七四〇九

二編集後記

◎：障害福祉年金はC.P.には支給されない場合が多い。これはC.P.は一応五体そろつているじゝ思うようにではないが手足を動かせるから、年金を受ける資格はない、というのだ。しかし生活力の点では一般に他の障害者、特に切斷者の方が勝っている。この矛盾した規則は一日も早く改めさせなければならぬが、私達も初めからあきらめずに手続きだけはとるべきでしよう。

K. T.

◎：この会報を二頁にするか六頁にするかで広報部と会計が一もめ。というものが会の通常運営金が残り少くなつたため。結果はごらんの通り。何卒、会費を滞納している方は会費を納めて下さい。— 青い芝を黄色くしないように。 A. Y

発行所
大田区雪ヶ谷七五二
青い芝の会（山北方）
編集責任者
印 刷 所
大田区調布嶺町二ノ三一
オール事務器 印刷部
柳 下 明 之

我々だけでの

— 楽しかつた今年のキャンプ —

七月二十五日から三泊四日に亘つて昨年
一年前に引き続き今年もまた葉山教会をお
借りして青い芝のキャンプがもたれた。

る者一当番になつた一、二班の人達は大奮斗。予定より一時間おくれて七時に夕食となる。仕度に三時間もかゝつてしまふ。

参加者は男一四人、女七人計二十一人。前回はエスペロ一會からついてきてもらつたが今年は我々だけで行つた。それは純粹な形において、我々はどれだけのことを出来るかを知るために、又人手を借りずに出来るだけのことをやることにより自信を得たのでつた。そして、それを得られた自信は日常生活においても充分プラスするものと考えられた。かくして、二五日、四人の先駆隊に統いて一二時ごろみんなが教会に着いて、我々だけの生活が始つた。

昼食は各自持参した弁当ですませたが、夕飯からは自分達で作らねばならない。何しろ二〇人分のだから一寸大変だ。はや四時には仕度にかかる。オ一夜はラーメンスカレーだ。御飯を炊く者、おいもを切

る者——当番になつた一、二班の人達は大奮斗。予定より一時間おくれて七時に夕食となる。仕度に三時間もかゝつてしまつたが、でも出来たライスカレーのおいしいこと、そのおいしさには、人手を借りず自分達だけでやつた誇らしさ、嬉しさもまじつていいた……。その夜はリクリエーションとして犯人さがしというゲームをやつて、一〇時就寝。翌日は全員六時起床。八時を少しまわつた頃、朝食をすませ、一班と二班は海水浴へ、三班、四班は残つてデイスカッショ n をする。海水浴組 浜辺について一休みしたところで、準備体操をして二、三人づつ固つて水の中へ。そして寒くなると浜に上つて甲らを干し、暖かくなるとまた水に入るので、繰返し。結局一ダーニ君のはからいで我々を見守りに来てくれたライフガイドの人が浜にビーチパラソルを立ててくれた。やがて、屋になり休憩所にいつ

て食事をとり、午後はまた水とのたわむれ。みんな愉快に夏のひとときを楽しみ事故もなく三時頃教会に戻る。

一方、ディスカッショングループの方は「現実社会と精神生活」というテーマのもとに主として「はずかしい」ということをめぐって話し合う。オーニーは三班、四班が炊事の当番、前日のチツをふるまいと三時半ごろから仕度にかかりつたが、それでもごちそう(?)であるのと、それに炊事道具がそろっていないせいもあって、またまた仕度に手間とり、七時二〇分になつてやつと夕食。その後「二〇の罪」をやつて、「一〇時を少しまわって消燈。オ三四日は、前日の海組とディスカッショングループが交替して、スケジュールを運ぶ。そして、夕食の仕度は、はや三時にならないうちからかゝつて、予定通り六時に夕食をとる。その日、最後の夜は「シェヌチャーアクイズ」を楽しみ、又教会幼稚園の先生も来られて歌やゲームを指導して下さる。かくして、二八日終りの日予定の反省会などを中止して、朝食後すぐ大掃除にかかる。そして、一二時には昼食をすませ、三時近くの逗子発の臨時電車で全員無事に東京に向つた。途中、大船、川崎、品川と順次降りていく、お互に握手を交わし乍ら……。わずか三泊四日の生活だったが、お互を固くむすびつけるものがあつたのだ。